

令和3年度 西区幼保小連携推進協議会だより <第1号>

つながる 249

これまで積み上げてきた取組の充実を願って命名しました。研究通信「すくすく249」と合わせて、引き続き御愛読ください。

西区幼保小連携推進協議会代表者会 令和3年7月12日発行

令和3年度、西区の幼保小連携推進協議会もスタートしました。しかし、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、今年度も1回目は参集しての研修が実施できず、書面でのアンケート方式で情報収集し、その後、この連携だよりで共有することとなりました。

まだまだ心配な状況は続きそうですが、皆様からいろいろと工夫した取組がたくさん寄せられています。アンケートを集約しましたので、園や学校で参考にしていただけますと幸いです。

1 令和3年度代表者紹介

手稲宮丘小学校 校長 松村 倫宏
八軒太陽の子保育園 園長 菊地 寿子
あづま幼稚園 教務主任 安田 祥平
西区保育・子育て支援センター 所長 加藤 和美
はまなす幼稚園 園長 坂田 恵子

どうぞよろしくお願いいたします。



2 令和3年度 西区幼保小連携推進協議会の計画

テーマ 『幼児期の育ちを小学校以降の学びにつなぐ幼小接続の実現に向けて
～コロナ禍を経験した子どもたちの健やかな育ちを支える接続の取組～』

令和3年度、コロナ禍においても子どもたちの育ち、学びを止めないための各園、各校での実践を踏まえて幼小接続の具現化を図ることが必要です。今一度、幼児期の育ちを小学校以降の学びにつなぐために“幼小接続の実現”のために何ができるかを探っていきたいと考えています。

【第2回】 日時：令和3年8月26日（木） 15:30～16:45

Zoomによりオンライン研修となります。

講演会 「これからの幼小接続を考える」

～幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）の具体を共有して～

藤女子大学 生活人間学部 子ども教育学科 教授 大室 道夫氏

【幼保小連絡会】 日時：令和4年1月17日（月）

※保護者の了承を得たお子さんについてのみの引継ぎを実施します。

※昨年度同様、電話での引継ぎとなります。

<アンケートの結果>

① コロナ禍でもできる接続 ～ 具体的なアイデアがたくさん。参考にいます！

幼児教育施設から

○オンライン (Zoom)

書面や文字だけでは、思いが伝わりづらい、思い違い等もあることから、直接顔を見ながら伝えることが大事。

○メール ○電話

○手紙・紙面・FAX

○学校だより、HP、 西区幼保小連携推進協議会だより

○その他

- ・小学校までの道のりを歩いてみる。外周を散歩させてもらう。
- ・6年生授業で質問を受けたときに、保育園の様子や園から送り出すときの職員の願いを伝えた。1年生と関わるヒントとなったようだ。

- ・園で行ったことを絵や文章で伝え、返事等をいただく。
- ・施設や栽培物の紹介の後、散歩等で見に行く。
- ・園児の質問に写真付きで返事をもらう。
- ・就学に対する質問や不安への回答
- ・小学校の一日、行事等をポスター等で紹介

小学校から

○園だより、学校便り

○オンライン (Zoom、Meet)

○ビデオレター、動画

○手紙、ポスター、紙芝居、朝顔の種プレゼント

○直接交流 (広い公園、学級単位)

○交流する場合は、規模を縮小、学級単位等分散しての実施

- ・見通しがもてるように小学校生活を知らせる。
- ・一日の流れ、1年生の様子、行事、給食、休み時間にやっている遊び、先生紹介、等
- ・10～15分程度の授業映像を見ながら、同じように受けてみる。
- ・行事参観は難しいので日常の何気ない様子を見る。
- ・年度末の引継ぎは電話と日程が決まっていたりやり取りしやすかった。

② スタートか/キュラムの実際と工夫 ～ 1年生を見守る工夫と協力体制が充実しています

◆学校全体で1年生の生活を支える

- ・入学1週間は、集団下校を行っている。
- ・「仲よし下校」 全校で集団下校の前に1・6年生だけで方面別下校。お互いの名前と顔を覚え、今後の学校生活の安心要素とする。
- ・数週間は、6年生が、朝と休み時間に、掃除とお世話をを行う。
- ・担任外やサポーターが給食配膳、下膳の手伝い。



◆密にならずに工夫

- ・公園やまち探検 (生活科) の在り方～人数や時間にゆとりをもって計画実行
密にならずに、1・2年生あるいは1年生のみで交流を楽しむ工夫～学校探検でのクイズなど
朝顔の栽培～間隔や時間をあけながらの活動
下校指導や休み時間の指導等、子どもたちの安心安全を第1に

- ・入学当初は、学校生活の確認が多くなりやすいので、遊び、実技教科の学習、教科学習を中心とした流れにして、興味関心意欲を持続させる。
- ・座学の機会を増やしていく。TT や学びのサポーターをフル活用して個別指導と並行して一斉学習に慣れさせていく。
- ・入学後1か月間は、遊びと学びの要素を組み合わせた生活科を中心とした指導を行っている。
1週目は、「心をほぐす」「きまりとルールづくり」、2週目は「心をほぐす」「仲間づくり」を中心に組み、小学校生活へのスムーズな適応を促している。
学校のルーティーンを覚えよう。(まずは自分) / 友達と仲良くなろう (周りの人への意識)
それに付随する学活や学習を重点的に4月に取り入れる。
- ・入学後3週間ほど、45分間という1コマの授業時間にとられることなくゆったりとした時間や細切れの時間で授業を行う。
- ・コロナ版スタカリを作成して指導に当たっている。

※各園からの情報を交流できると、より一層、入学後の指導に生かすことができる。
幼稚園保育所との引継ぎを丁寧に行い、校内で共有する。

③ With コロナ生活の工夫 ～ 「まず、基本的な感染予防対策の徹底」という声が大半でした！

幼児教育施設から

◆基本的な感染予防の徹底 ～手洗い、うがい、消毒、マスク、換気、等

- ・健康カードの活用（登園時検温、家庭での検温、平熱で個人への配慮、）
- ・蛇口は腕で操作できるように ・空気清浄機 ・固定遊具は消毒や使用しない
- ・外遊びを多くしている。公園では密を避ける。
- ・学級単位が基本 ・コロナ発生時を想定して、保育室内の記録用写真どり

◆食事に関して

- ・パーテーション使用 ・向かい合わせにならない、横並び
- ・年齢の高い幼児は黙食、水筒持参（低年齢児使い捨て紙コップ） ・歯磨きは中止 or 距離とって
- ・保育者は一緒に食事をしない ・配膳は保育者

◆行事・保育

- ・見直すことで改めて大切なことを見極める機会になった
(学級単位、人数制限、規模の縮小、園内で関連した遊びへ、等)
- ・待ち時間の縮小で気持ちを途切れさせることなく取り組めた
- ・保護者へ理解を図りながら実施 ・やめるのではなく工夫して実施 ・全員で育ちを共有
- ・距離を置いて座ることで集中できた等、これまでの保育を見直す機会となった。
- ・幼児自身が状況を理解し、自分の身を守るように話し合いの場を設ける。



◆保護者に関して

- ・保護者の園内入室制限協力
- ・面談は短時間で検温
- ・動画配信アプリの活用
- ・HPに動画をアップ（鍵付き専用ページ）
- ・玄関掲示の工夫

◆その他

- ・保育者の自己の行動記録
- ・休憩は時間をずらす。
- ・会議時間の短縮でアプリ使用で書面をあらかじめ見て意見記載、把握

小学校から

◆基本的な感染予防の徹底

- ・手洗い、マスク、換気、密にならない、黙食、水筒持参、話し合い活動、歌唱、器楽等の制限 等
- ・運動時のマスク管理指導
- ・児童一人一人の机を離して座学中心の学習を続けている。
- ・トイレ、水飲み場は、ソーシャルディスタンスを保つため印付け。
- ・給食は、一人一人食器を取りに来て持っていく。教師が配膳。
- ・様々な場面で密を避けるため、時間をずらすなどの工夫。
- ・6年生による1年生のお世話ではスキンシップを避けるように心掛けている。
- ・運動会を9月に延期し、学年ごとに開催予定。
- ・安全に遊ぶことができるようルールを決めて取り組む（人数、手指消毒、遊具消毒）
- ・GIGAスクール構想により、タブレットを学習で活用している。
一人1台の端末（クロムブック）の実現により、小交流やグループ学習が一部行えるようになった。1年生もアルファベットと数によるパスワードの入力ができるようになっています。



◆全体的に

- ・札幌市のガイドラインに則って本校のガイドラインを作成し共通理解のもと、指導に当たる。
- ・活動は学級単位で少人数で
- ・担任外や学びのサポーター等、複数の目で安心安全を
- ・子どもたちの願いや思いを大切に、広いところで楽しめるような工夫
- ・距離を取っての活動でも、子どもたちのつながりが感じられるような環境の工夫
- ・やめてしまうのではなく、実行するための工夫
- ・感染症対策 NAVI を作成し家庭に配付し共通認識で活動を進める。

3 代表者会を終えて

- ・With コロナの生活であるが、当たり前だったことや学びに必要なこと等を改めて考える機会となった。
- ・感染症予防の徹底のためには、御家庭の理解と協力が大切である。
- ・ソーシャルディスタンス（距離）のある生活であるが、いろいろな工夫で人とのつながり、心がつながっていると感じる。



★8月26日の研修もお待ちしております。